

さあ立って 戸口を閉めて

1 聖マーティン祭のころでした

とても楽しいお祭り気分

女房がフライパンで

プディング作りの真っ最中

2 冷たい風が 南と北から吹きました

床ゆかに寒々吹き込みました

亭主が女房に言いました

「さっさと 戸口を閉めるのだ」

3 「手が空あきません

ごらんの通り おまえさん

戸口は この百年も開あいたまま

なんでわたしが閉めるのよ」

4 どっちも譲らず 言い張って

亭主と女房は取り決めました

最初に口を開ひらいたほうが

立って 戸口を閉めること

5 二人の客がやって来ました

真夜中も十二時というところに

家の中は真っ暗で

暖炉もロウソクも消えたまま

6 「こちらは 金持ちのお屋敷か

それとも 貧しい者の家」

亭主も女房も 口ききません

きいたら 戸口を閉める羽目

7 二人の客は 白いプディングに手をつけて

黒いプディングも平らげました

女房は内心ムカムカしながら

ひと言も 口ききません

8 客が 仲間に言いました

「おれのナイフを貸してやるから

亭主のひげを剃り落とせ

おいらは女房にくちづけしよう」

9 「お湯がどこにも見当たらないぜ

ひげを剃るにはどうしよう」
「フライパンにたぎっている
プディング汁を使うがいいさ」

10 そのとき 亭主が立ちあがり

真っ赤な顔で 言いました
「女房には 目の前でくちづけをして
おれには プディング汁で熱傷やけどさせる気か」

11 そのとき 女房が立ちあがり

床ゆかの上を三回跳ねて 言いました
「おまえさん 先に口をきいたわね
さあ立って 戸口を閉めて」

(山中光義訳)